

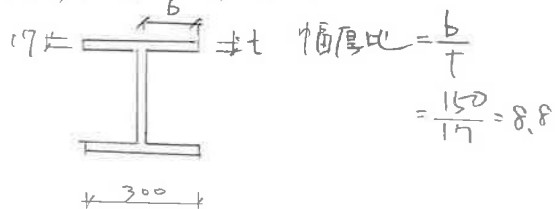
# 平成26年No17 鉄骨構造

1. 基準強度と幅厚比 → 鋼材の基準強度が大きくなると、幅厚比の制限値は小さくなる
2. 横座屈と横補剛材 → 横座屈を防止するために、横補剛材を設置する
3. 角形鋼管の許容曲げ応力度 → 横座屈のおそれがないため許容曲げ応力度を許容引張応力度と同じ値にできる
4. ラン構造の座屈長さ → 横移動が拘束されているラン構造の柱材の座屈長さは  $0.5h \sim 1.0h$  ( $h$ は節点間距離) となる

## 1. 基準強度と幅厚比

幅厚比 = 幅 / 厚

(例) H形鋼梁フランジ



幅厚比の制限値

(例) H形鋼梁フランジ  $9.5\sqrt{235/F}$

SU400 (F=235)    SU490 (F=325)

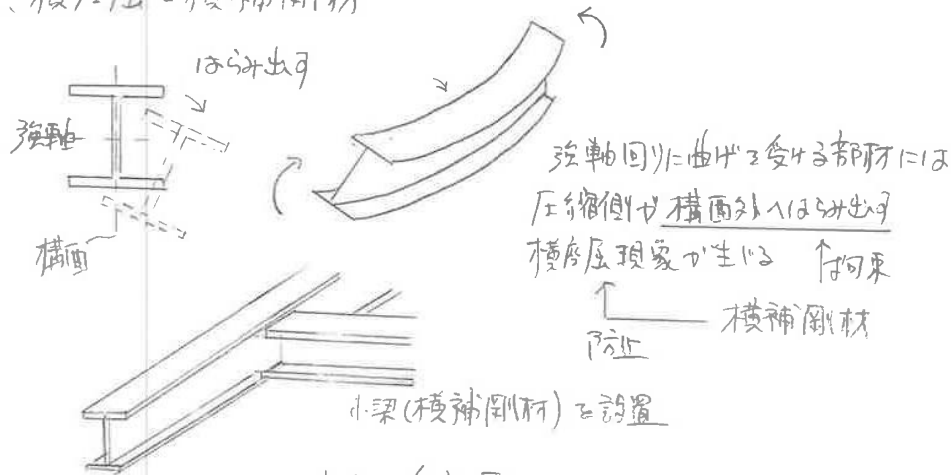
$$9.5\sqrt{235/235} \quad 9.5\sqrt{235/325}$$

$$= 9.5 > 8.1$$

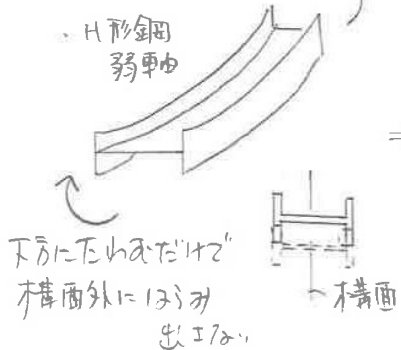
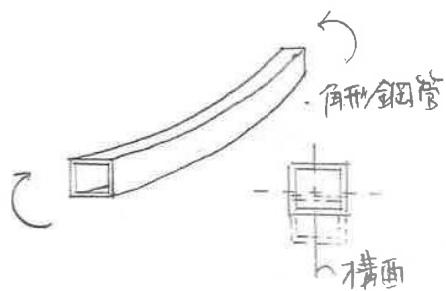
↑ 制限値が小さい  
 ↑ 強度が大きい

局所座屈 (せり) 発生しやすくなる

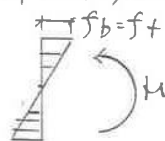
## 2. 横座屈と横補剛材



## 3. 角形鋼管の許容曲げ応力度



⇒ 許容曲げ応力度 ( $f_b$ )  
 = 許容引張応力度 ( $f_t$ )



## 4. ラン構造の座屈長さ

